

平成22年度

事業計画書



CAMPING フォトコンテスト出展作品「楽しいいり返り」(渡辺直史さん撮影)

社団法人 日本キャンプ協会

平成22年度 社団法人 日本キャンプ協会 基本方針

現在の組織キャンプのルーツは米国で1861年に行われたウィリアム・ガンによるものだと言われており、2011年には、このキャンプから数えて150周年の記念の催しが、ACA（アメリカキャンプ協会）で準備されています。

また、日本のキャンプ界にとっても、この2～3年の間には様々な節目が訪れます。すなわち、平成22年は日本ガールスカウト連盟設立90周年（世界ガールスカウト設立100周年）、日本YMCAのキャンプ90周年等の年であり、8月には指定管理者として管理運営をしている静岡県立朝霧野外活動センターを本部サイトとするボーイスカウトの第15回日本ジャンボリーが行われる等、内外の野外活動団体、関係者の往来は例年にないものとなることが予想されます。

そして、平成23年は北米キャンプ150周年に加えて香港で第8回国際キャンプ会議と第4回アジア・オセアニア・キャンプ会議が予定されており、1966年に設立された日本キャンプ協会が設立45周年を迎える年でもあります。

私たちはこのような時を、すべての人々の間でキャンプ・野外活動への関心・注目を高める好機として捉え、「Camping for All」の運動拡大に更に邁進しなければなりません。

一方、平成20年度より始めた公益社団法人化への取り組みは、時代の要請に相応しい事業構成の組み替えや組織の再編成を行いながら、最終的な申請書類の作成作業へと入って行く段階にあります。

こうしたことから、平成22年度は本協会の設立45周年の節目を迎える23年度に向けての大切な準備期間として、一つひとつの事柄を丁寧に積み重ねていく年度とすることができます。

社会の経済的状況が必ずしも順調でない中であって、キャンプという場に止まらず、社会の様々な課題に取り組み、社会貢献の役割を果たすのは容易なことではありません。しかし、こういう時代であればこそ、キャンプが内包する人々の成長にかかわる力を発揮するために、以下の4点を基本として平成22年度の事業を展開していきます。

1. キャンプの良さを広めるため、キャンプを指導する人々の養成に力を注ぐ。
 - ・新しいキャンプ指導者の養成に力を注ぎ、キャンプにかかわる人々の輪を拡大する。
 - ・既に指導者として活動している人々の理論的、技術的レベルアップを図り、学校キャンプを支援するなど地域の人々と協働しながら社会貢献の出来る人材を育成する。
 - ・様々なニーズのある人々に応じたキャンプが作り出せる指導者の育成に努める。
2. 協会設立45周年に向けて準備をすすめる。
 - ・平成23年に迎える協会設立45周年を記念する事業の準備を行う。
 - ・都道府県キャンプ協会と日本キャンプ協会の役割分担等を明らかにし、より強固な関係の構築を図る。
 - ・3～5年先の中期的展望に立った総合計画を作成し、実行に着手する。
3. 「人が財産」である社団法人としての原点を見据え、時機に相応しい活動の出来る態勢を整える。
 - ・事業構成の組み替えや組織の再編成を行い、公益社団法人として相応しい事業形態を整える。
 - ・公益社団法人化のための最終的な申請書類の作成作業を行う。
 - ・会計基準の移行、各種規定（程）類の整備を行う。
4. 先行きの見えにくい経済的な状況に対応した、合理的な協会運営を行う。
 - ・理事会、運営会議、専門委員会等の組織の機能、権限等について、合理的な在り方を定めるとともに経費の縮減を行い、合理的な財務管理を履行する。
 - ・事業の費用対効果等を考慮し、先例にとられない事業のスクラップ&ビルドを大胆に行う。
 - ・指定管理二期目に入った朝霧野外活動センターの確実な管理運営を行い、利用者の確保に努める。

平成22年度 事業計画

1) キャンプの活動を広く社会に広め、定着していく事業

「すべての人々の成長に良い刺激と影響を与える」キャンプを広く社会に向けてアピールし、人々の豊かで充実した暮らしに資するために、野外活動になじみの薄い市民にも分かりやすい事業を展開する。

また、キャンプを通して自然の中で活動することの楽しさや意義が理解され、誰もが気軽にキャンプを楽しめる風土づくりに力を注ぐ。

1. 「第20回 全国キャンプ大会 in ぎふ」の実施

全国キャンプ大会は、1991年より毎年、全国の会場を持ち回りで開催してきた。そして、キャンプ指導者や愛好者が一堂に会すことによって、キャンプを通じた様々な取り組みの成果を発表したり、実際にキャンプ生活を体験する場として貴重な時間を共有してきた。

しかし、社会の変化や人々の価値観の多様化が進む中、全国大会の意味や開催方法が問われる時期にあることも確かである。営々と続いてきたことを真摯に問うことは勇気の要る作業であるが、本大会では日頃の研鑽の結果を披露し、情報を交換しながら、次の新たな展開への第一歩を踏み出す機会として実施する。

期 日：平成22年10月9日(土)

～10月11日(祝)

会 場：国立乗鞍青少年交流の家(岐阜県高山市)

対象者：全国のキャンプ指導者・愛好者(300名)

主 催：(社)日本キャンプ協会

主 管：岐阜県キャンプ協会

後 援：文部科学省他(予定)

協 力：都道府県キャンプ協会



2009年度 全国キャンプ大会 in 高知・むろと開会式

2. Camp Meeting in Japan 2010 - 第14回日本キャンプ会議 - の開催

多くの人々が自分たちの実施したキャンプの実践報告をしたり、研究発表をすることを通して、指導者に止まらず様々な立場の人々の間にキャンプの情報が共有化されることは、キャンプの普及にとっては大きな意味のあることである。



Camp Meeting in Japan (日本キャンプ会議)

更に、キャンプ・自然体験活動の効果や価値が多くの人たちに理解され、定着するためには、文章や映像等によって表現されたものとして発表されることが望ましい。この会議はその機会を、様々な立場の人々への開かれた場として提供するものである。

期 日：平成22年5月22日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

内 容：キャンプの実践報告および研究発表

3. 「自然体験活動青年ミーティング2010」の実施

自然体験活動における若い指導者の育成は、今後の国内の自然体験活動を充実させる上で重要な課題である。自然体験活動青年ミーティングは、すでに自然体験活動の分野で活動している青年や、これから活動を始めたいと考えている青年たちが集い、野外技術や実践理論を学ぶ機会とする。また、2泊3日の生活をともにすることで、参加者同士の「つながり」を形成することも大切なねらいである。

期 日：平成22年9月18日(土)～20日(祝)

会 場：川崎市立黒川野外活動センター(神奈川県川崎市)・予定

対象者：おおむね30歳未満の自然体験活動指導者ならびに自然体験活動に関心を持つ若者

主 催：(社)日本キャンプ協会(自然体験活動青年ミーティング実行委員会を公募で組織し、企画・運営にあたる)

内 容：講演・ワークショップ・トークセッションほか

協 力：日本アウトドアネットワーク

4. キャンプの普及活動のための各種キャンペーン

キャンプ・自然体験活動によって個人の成長が促進されること等は多くのデータによって裏付けられるところであるが、これらの効果を広く社会に告知することは大切なことである。一方、野外活動につきもののリスクに対する備えも個々の人々に必要なものである。これらを周知するためのキャンペーンを関係諸団体等と協働で行い、幅の広い運動にすることで一層の効果をねらう。

セーフティアウトドア月間(キャンプ安全の日)のキャンペーン(7月～9月)の実施

「キャンプ安全の知恵」の募集と選定(4月～7月)

5. モデル事業の実施

キャンプの良さを社会の中に広げていくためには、多くの人々がキャンプの具体的なプログラムを体験することが有効である。キャンプのプログラムや指導者が学ぶべき事柄は、社会の移り変わりに連れて変化するものであるが、今の社会に求められている取り組みをモデル的に展開し、その内容と運営の方法を各地に広げていくための種まきの事業がモデル事業である。

キャンプ・アカデミーの実施

組織キャンプの考え方をベースに、「キャンプに関連する新しい社会事象・取り組みを学ぶ」「キャンプによる社会貢献を考える」ことを意識した内容とする。また、キャンプ指導者の学びの機会としてだけでなく、教育関係者や医療・福祉関係者など異業種の人々にもキャンプがいろいろなことに活かせる手段であることを知ってもらうきっかけとする。

期 日：6月、12月、3月(H23)

テーマ：「海外のキャンプスキルワークショップ」「その道のプロに学ぶ問題解決法」等

対象者：キャンプ指導者および一般市民

アウトドアスキルをゲーム化した「C-1グランプリ」のパッケージプログラムづくりを進めていく。

RME(リスクマネジメント エクササイズ)の普及。



リスクマネジメントエクササイズ(RME)

6. 公共団体、関係団体、企業等の行うキャンプ・野外活動の事業受託および後援・協力

日本キャンプ協会の社会に向けた窓口として、各種キャンプ、指導者、キャンプ場の紹介、用具、図書、情報等についての相談に応じる。また、キャンプの企画、運営受託や各種キャンプ関連事業に対する講演や講師派遣などの協力をする。このことによりキャンプの普及を図るとともに、新しい社会的課題にふれ、キャンプの新たな社会貢献の可能性が生まれること、また、指導者資格を有する会員の活躍の場が広がることも期待する。

キャンプに関する相談およびマスコミへの対応

協賛企業とのコラボレーションによって「アウトドアセーフティハンドブック（仮称）」を作成し全国の小学校等で配布をしたり、キャンプをはじめとする自然体験活動の普及、野外における安全意識の向上を図る。

7. CAMPINGの発行

キャンプに関する最新の情報や様々なキャンプ現場で役立つ情報を掲載した広報誌を隔月で発行し、キャンプ指導者、愛好者を対象に「現場で役に立つ情報を分かりやすく提供する」をコンセプトに紙面作りをすすめる。

【年6回発行（各20,000部）】

- 第134号（4月/5月）
- 第135号（6月/7月）
- 第136号（8月/9月）
- 第137号（10月/11月）
- 第138号（12月/1月）
- 第139号（2月/3月）



8. ホームページ・メールマガジンの配信

幅広い情報のやりとりが可能なITを活用し、即時性の高い情報発信を行う。

ホームページを通じた情報発信

各都道府県キャンプ協会・各専門委員会および関連団体等と連携し、会員の学習機会の拡大に資する情報の提供をするとともに、一般向けのコンテンツを充実し、広報効果の拡大を図る。

メールマガジンの発行

常に新しい情報を配信し、会員及び一般への周知を図る。（年17回）

セキュリティの強化

各都道府県協会や会員、一般の人々が安心して利用できるようセキュリティ面の充実を図る。

9. 自然体験活動の場の提供と施設の運営

指定管理者として静岡県立朝霧野外活動センターの運営を行うことを通して、多くの人々の自然体験活動を支援するとともに、周辺地域との協働によって新しい活動領域の開拓を行う。

受け入れ事業 自主事業 新規プログラム開発 地域との協働

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
朝霧高原サマーキャンプ ～つなごろう富士山～	7月 4日(日)	小学校5～6年生	事前研修
	8月 3日(火)～9日(月)	中学校1～3年生	本研修

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	備考
宿泊利用団体 担当者研修会	4月16日(金)	宿泊利用団体の担当者	2011年
	9月12日(日)		
	2月18日(金)		
野外活動プログラム実習	4月17日(土)～18日(日)	利用団体の担当者・指導者	
長期キャンプ指導者 養成講習会	6月19日(土)～20日(日)	専門学校生 短大生 大学生	全4回参加が条件 8/3-9は朝霧高原 サマーキャンプ と併行開催
	7月 3日(土)～4日(日)		
	8月 3日(火)～9日(月)		
	10月16日(土)～17日(日)		
野外教育指導者 養成講習会	2月11日(金)～13日(日)	野外教育に興味のある人、青少年団体の指導者、教育関係者	2011年
	3月 4日(金)～6日(日)		

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
ちょっといい春感じませんか	4月24日(土)～25日(日)	家族・小グループ	
ファミリーキャンプ	7月18日(日)～19日(月)	家族・小グループ	
朝霧高原トレイルランニングレース	9月 4日(土)～5日(日)	家族・小グループ	
ステキな秋をあなたに	10月 2日(土)～3日(日)	家族・小グループ	
オリエンテーリング in 朝霧	11月27日(土)～28日(日)	家族・小グループ	
スケートキャンプ	12月10日(金)～11日(土)	家族・小グループ	2011年
	1月14日(金)～15日(土)		
	2月18日(金)～19日(土)		
	3月11日(金)～12日(土)		

施設開放事業

事業名	日程	対象	備考
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日	家族・小グループ	13:15～14:45 15:00～16:30
スケート一般開放	11月～3月の原則日曜日	家族・小グループ	13:00～15:30 15:30～18:00
朝霧カーニバル	11月 7日(日)	どなたでも	

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	備考
ホッとキャンプ	3月 7日(月)～11日(金)	不登校・生徒・引きこもりがちな青年	2011年



朝霧野外活動センターでの活動



長期キャンプ指導者養成講習会

2) 指導者養成事業

キャンプが様々な人々の間に普及し、「Camping for All」の運動が効果的に展開されるためには、トレーニングを受けた指導者による支援は欠かせないものである。キャンプの基本から応用まで、また参加者の理解、グループの理解と導き方などを学習した指導者の養成は常に行われなければならない。

1. 指導者養成講習会の実施

ディレクター2級(PD)養成講習会(全国5ヶ所)

会場	日程	場所(予定)
北海道	10月1日(金)～10月3日(日)	札幌市青少年山の家
広島	10月22日(金)～10月24日(日)	もみのき森林公園
大阪	10月29日(金)～10月31日(日)	大阪府立総合青少年野外活動センター
静岡	11月21日(日)～11月23日(火)	静岡県立朝霧野外活動センター
千葉	1月8日(土)～1月10日(月)	千葉市少年自然の家

ディレクター2級(MD)養成講習会(全国5ヶ所)

会場	日程	場所(予定)
東京	6月26日(土)～6月27日(日)	国立青少年センター
広島	10月23日(土)～10月24日(日)	もみのき森林公園
大阪	10月30日(土)～10月31日(日)	大阪府立総合青少年野外活動センター
栃木	12月11日(土)～12月12日(日)	栃木県民会館コンセーレ
愛知	2月5日(土)～2月6日(日)	名城大学名駅サテライト

ディレクター1級養成講習会(全国2ヶ所)

会場	日程	場所(予定)
西日本	10月30日(土)～11月3日(水)	大阪府立総合青少年野外活動センター
東日本	11月19日(金)～11月23日(火)	静岡県立朝霧野外活動センター

ディレクター1級検定会(全国2ヶ所)

会場	日程	場所(予定)
東日本	1月15日(土)～1月16日(日)	国立青少年センター
西日本	1月29日(土)～1月30日(日)	大阪府立羽衣青少年センター

2. 指導者の審査・認定

18才人口の減少に伴う、キャンプインストラクター資格取得対象者の減少は大きな課題であるが、組織キャンプの普及、定着のためにはキャンプインストラクターの養成は不可欠である。今年度は更に新規課程認定団体の獲得や養成人数増に力を注ぎ、新規指導者4,500名の登録を目指す。

資格申請者の審査・認定 4,500名を目標
 指導者資格の更新 10,000名を目標
 課程認定団体の新規登録 10校を目標
 課程認定団体との連絡・調整



キャンプ指導者養成(キャンプディレクター2級)

3. 自然体験活動養成講習会の開催(文部科学省委託事業・申請中)

小学校での長期自然体験を支援する指導者の養成を行う。

期 日：2010年9月～2011年2月
 会 場：全国6か所程度を予定

4. 指導者養成制度の改善に関する検討

現在のカリキュラムの見直しとともに、新たな対象の拡大も含めて検討する。

5. キャンプディレクター必携の改訂 平成22年6月 第3版発行予定

3) キャンプの調査・安全に関する事業

調査を通じて得られる情報を整理し、分かりやすく社会に提供していくことは調査・安全に関する大きな役割である。また、指導者がキャンプを実施する際に用いる多様な情報は、指導者同士で共有されることによって、その価値を高めることが出来る。本年度は、野外活動における事故事例の調査や分析、国内に限らず海外の資料の調査を含め、プログラムの安全に止まらず組織のリスクマネジメントに関するものを含めて幅広く取り組んで行く。

1. キャンプ研究の発刊

国内外のキャンプの実践者や研究者が成果を発表できる研究誌として発行する。

年2回発行

第14巻第1号 - 5月

第14巻第2号 - 11月

2. 国内外の情報収集・調査

2011年をゴールに設定し、国内外のキャンプに関わる資料を整理し、キャンプについての人々の意識や実態等について調査、分析し、その結果を「キャンプ白書」という形に表す取り組みに着手する。

また、専門的な研究と実践的な試みの両面からキャンプ、野外活動を俯瞰し次代の活動・事業の在り方を考えるためのガイドライン作りを目指す。（今年度はその成果をWeb等で公開する）

3. 企業・行政とのコラボレーション

各都道府県キャンプ協会・各専門委員会・企業・行政等と連携し、全国各地で行われる各種イベント等で、プログラム提供や冊子配布などを通じて、キャンプおよび日本キャンプ協会の広報を図る。

また、「Jリーグ」、「JOCエリートアカデミー」等とのコラボレーションでは、キャンプの内包する力によって今という時代が求めている「こどもらしさ」や「大人らしさ」を引き出すプログラムを提供する。

4. オフィシャルレポーターによる会員モニタリング調査

オフィシャルレポーターによる定期的（年6回予定）モニタリングを継続して行い、各地で行われているキャンプの内容や考え方についての実態等を把握し、より良いキャンプの普及の一助とする。

5. 出版事業

「キャンプ指導者入門」の改訂

キャンプインストラクター養成講習会に使用する「キャンプ指導者入門」の改訂を、指導者養成委員会と連携して行い、これを増刷する。

「キャンプディレクター必携」の改訂

キャンプディレクター養成講習会に使用する「キャンプディレクター必携」の改訂を、指導者養成委員会と連携して行い、これを増刷する。



ISBNコードの管理

出版物のISBNコードの管理を行う。

書籍の出版

キャンプの楽しさや有用性をより多くの人々に知らせるために、書籍の出版を計画する。

6. ICF・AOCF・ACA等との連絡調整

2011年に香港で予定されている「国際キャンプ会議」の開催に向けて、日本でも協力態勢を組み、準備を始める。

4) 都道府県キャンプ協会との連携・協力

キャンプの普及活動は具体的な事業を通して行うことが必要であり、地域の実情にあった活動を提供するためには都道府県キャンプ協会が活発に機能することが求められる。そのために、社会や時代の状況に即した諸基準の整備を行い、現場主義に立った活動の支援体制を作る。

1. 各都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

会員がより身近な情報を得ることができるよう、各都道府県キャンプ協会の広報活動の支援を行う。

会報同封サービスの提供

各都道府県キャンプ協会の発行する広報誌をCAMPINGに同封することで、会員が身近な地域の情報をより多く得られるようにする。本サービスを利用することで郵送費を低く抑えることができるので、情報発信の機会が増加することが期待される。

ホームページサービスの提供

各都道府県キャンプ協会が独自のホームページを運用できるサーバーを提供するとともに、日本キャンプ協会ホームページを通じた事業告知や事業報告を行う。

各種情報の提供

各都道府県キャンプ協会が地域での活動の幅をひろげることに役立つ各種情報を効果的に提供できるように、都道府県キャンプ協会向けの情報サービスを提供する。(ニュースレター発行、グループウェアの導入検討などを行う)

2. 日本キャンプ協会の公益法人化に伴う各都道府県協会の規約等の整備とミッションの明確化

3. 各都道府県協会の実施するBUC等の承認・支援



各地で展開されるBUC事業

5) (社)日本キャンプ協会の設立45周年特別事業の推進

2011年に設立45周年を迎える日本キャンプ協会の将来的な展望をはかるために、この年度より特別事業を実施するためのプロジェクトチームを編成する。

特別記念事業実行委員会

CAMPING ASAGIRI 2011 実行委員会

公益社団法人化委員会

中期総合計画委員会

6) 総務・財務

長期化する景気の下降状況を受け止め、健全な財務管理に努めるとともに公益社団法人化を視野に入れながら各種規定(程)類の整備を行う。また、都道府県キャンプ協会の円滑な事業展開のために効果的な支援を行う。

1. 諸会議の開催

総 会 5月22日(土) 平成23年3月19日(土)

理 事 会 5月22日(土) 平成23年3月 5日(土)

常 務 会 随時

運 営 会 議 随時

都道府県事務局担当者会 5月23日(日) 10月9日(土) 平成23年3月20日(日)

ブ ロ ッ ク 会 議 上記、都道府県事務局担当者会時及び各地で1~2回程度

2. 日常総務事務

会員情報管理

会費請求 VISA・口座振替・郵便振替の会員に各時期

名簿管理(入出力)

事業方針・計画・予算の管理 日常経理事務 収益事業の運営管理 助成金事務 人事管理・研修

他団体との窓口 諸規定(程)の整備



NCAJ

National Camping Association of Japan

キャンプ中 変わる気象に 変わらぬ注意 【安全なキャンプのための標語 2009最優秀作品】